

1997

千葉県建築文化賞

第4回表彰作品集

## 千葉県建築文化賞について



千葉県知事 沼田 武

第4回千葉県建築文化賞に、多くの皆様から御応募をいただきありがとうございました。

千葉県では、県民福祉の向上と県土の均衡ある発展を図ることを目標に「ちば新時代5か年計画」を策定し、21世紀に向けた新しい千葉県づくりに取り組んでいます。

本計画では、まちづくりにおける地域文化の創造や「千葉県福祉のまちづくり条例」に基づく生活福祉空間づくりなどを掲げておりますが、これらの実施にあたっては県民のニーズを十分に踏まえた施策の推進が重要であります。

千葉県建築文化賞はこうした施策の一環として、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に創設したもので、景観に配慮した建築物と高齢者、障害者等に配慮した建築物の表彰を実施しております。

第4回目の今年度は87件の御応募をいただきましたが、これらの応募建築物の中から選考委員による現地審査を含めた厳正な選考過程を経て、景観や高齢者、障害者等への配慮がなされた優れた建築物として建築文化賞5点、建築文化奨励賞5点を決定いたしました。

今後、県ではこれらの建築物が都市景観の形成や建築文化の向上の先導役となるような生活環境づくりを推進してまいり所存ですので、県民の皆様方におかれましても、より一層の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、選考委員をはじめとする関係者や応募された方々、後援・協賛団体各位の御協力に感謝を申し上げます。

平成10年3月

## 選考経過・総評

選考委員長 守屋秀夫

第4回建築文化賞に対して今年も多くの方々からご推薦をいただき、応募総数は前回は上回る87件(建築数で82点)となった。県下各地の一般県民を含むいろいろな方からご推薦をいただいたばかりでなく、建築物の種類もさまざま、規模も大きいものから小さいものまで各種のものが推薦されてきた。

ただ、今回も景観に配慮した一般建築物と住宅、高齢者・障害者等に配慮した一般建築物と住宅の4部門に分けて募集したが、推薦された建築物は景観に配慮した一般建築物が3/4近くを占め、高齢者等に配慮した住宅は1件にすぎなかった。ハートビル法の施行もあって、とくに高齢者・障害者用の建物でなくても障害者等に配慮した設計とする考え方が普及してきたことは現地審査でも実感されたことであり、高齢者・障害者等に配慮した設計の模範となる建築物・住宅がもっと数多く現れることを期待したい。

審査は、まず応募図書に添付された説明書と写真によって18点の建築物を選び、これらを現地訪問して詳細に調査した。このとき、これに次ぐものとしてさらに20点を選んで奨励賞の建築物を選ぶときの候補とした。2次審査では、現地調査の報告をもとに討議のうえ表彰者を決定した。なお、応募件数の多寡と建築物の優良さを勘案して、当初予定していた部門別の表彰件数とは異なる配分とせざるをえなかった。奨励賞の選定は、2次審査の段階で、現地審査に行かなかった20点も含めて審議し、この中からは「防災備蓄倉庫」と「ティンバーヤード」を表彰候補とすることを決め、これらについては現地審査を追加して、確認のうえ最終的に確定した。

審査にあたっては、それぞれの部門の趣旨に合致していることはもちろん、美しく、誰からも親しまれる形をもつこと、これらのために独自の工夫がみられること、建物の利用・運営にも適切な心遣いがみられることなどを重視した。

### 景観に配慮した建築物

今回の応募建築物には、県市町村立といった自治体の建てた建築物が比較的多かった。ひとところと較べて、民間の豪華な建物が影を薄くした反面、公立施設の質が向上してきた表れとみてよいであろう。

現地審査のために各地を回った感想としても、いたずらに人目を引こうとしたデザインよりも、実質的な質のよさに努力が払われるようになり、良質なストックが蓄積されていると思う。応募者の目も年とともに肥えてきているように感じられた。

その中で、「大多喜小学校」は大多喜城を背景に、歴史的な風情を盛り込んだ外観をとりながら、新しい教育方式に積極的に取り組んだものとしてすばらしい。学んでいる児童たちが嬉々としていながら礼儀正しいのを見ると、建築のもつ力を実感する。「和洋女子大学佐倉セミナーハウス」は、建物と周囲のランドスケープとの関係が巧みで、日本の伝統的感性を外国人設計者にしてやられた感がある。「かずさアカデミアホール」は「オークラアカデミアパークホテル」と隣接し、一体的に計画されたものであるが、両者の調和にやや不十分さがみられたので、「ホール」だけを表彰の対象とした。

「木更津の家」は質の高い和風住宅であるが、地場産の材料と技術を積極的に取り入れた点と格調の高さが評価された。

### 高齢者・障害者等に配慮した建築物

この部門の応募建築物は、前回は指摘したように、どれも、段差をなくし、手すりをつけるなどの必要条件是満たしているが、どこまで障害者等の立場で考えているかというその先の配慮がまだ十分とはいえないように見受けられた。その中では、「浦安市当代島公民館」が中にいた利用者たちがもっとも生き活きとしていたので、地域の人たちに密着した施設となっていると判断して、この点を評価に加えた。

住宅部門には、残念ながら適切なものがなかったため、該当建築物なしとして、代わりに景観部門の表彰点数をふやすことにした。